

科目名 (科目番号)	公衆栄養学 I (092251)	教員名 野口祥子	学科等	保健栄養	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			オフィスアワー			D305研究室	
授業概要	地域や職域などの健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを統合して評価・判定する能力を養う。また、わが国や諸外国の健康・栄養問題を理解するとともに、それらに対応した主な栄養施策について学ぶ。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	公衆栄養の概念	到達目標:公衆栄養の概念について理解する。 学習内容:公衆栄養の意義と目的、生態系と食料・栄養、保健・医療・福祉・介護システムと公衆栄養、コミュニティと公衆栄養活動について学習する。				
	2	公衆栄養活動1	到達目標:公衆栄養活動について理解する。 学習内容:公衆栄養活動の歴史、現状の課題について学習する。				
	3	公衆栄養活動2	到達目標:様々な場面での公衆栄養活動について理解する。 学習内容:生態系保全や地域づくりのための公衆栄養活動、ヘルスプロモーションのための公衆栄養活動を学習する。				
	4	公衆栄養活動3	到達目標:様々な場面での公衆栄養活動と健康増進の視点に立った公衆栄養活動について理解する。 学習内容:自己管理能力や疾病予防のための公衆栄養活動、少子・高齢社会における健康増進について学習する。				
	5	健康・栄養問題の現状と課題 1	到達目標:健康状態の変化について理解する。 学習内容:死因別死亡、平均寿命、健康寿命、生活習慣病の有病率について学習する。				
	6	健康・栄養問題の現状と課題 2	到達目標:食事、食生活の変化について理解する。学習内容:エネルギー・栄養素摂取量、食品群別摂取量、料理・食事パターン、食行動、食知識・食態度について学習する。				
	7	健康・栄養問題の現状と課題 3	到達目標:食環境の変化について理解する。学習内容:食品生産・流通、食情報の提供、保健を目的とした食品の提供、フードバランスシート(食料需給表)、食料自給率について学習する。				
	8	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 1	到達目標:諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。 学習内容:先進諸国、開発途上国について学習する。				
	9	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 2	到達目標:諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。 学習内容:開発途上国、地域間格差について学習する。				
	10	栄養政策	到達目標:わが国の公衆栄養活動と栄養政策実施に関連する指針等について理解する。 学習内容:健康づくり施策と公衆栄養活動の役割、公衆栄養活動と組織・人材育成、食生活指針、食事バランスガイドについて学習する。				
	11	公衆栄養関連法規	到達目標:公衆栄養関連法規について理解する。 学習内容:地域保健法、健康増進法、食育基本法について学習する。				
	12	管理栄養士・栄養士制度	到達目標:管理栄養士・栄養士制度について理解する。 学習内容:栄養士法、管理栄養士・栄養士の社会的役割、管理栄養士・栄養士養成制度の沿革、管理栄養士・栄養士養成制度について学習する。				
	13	国民健康・栄養調査	到達目標:国民健康・栄養調査について理解する。 学習内容:調査の目的・沿革、調査の内容・方法と結果について学習する。				
	14	国の健康増進基本方針と地方計画	到達目標:国の健康増進基本方針と地方計画について理解する。学習内容:国の基本方針策定の目的・内容と基本方針の推進と地方健康増進計画、食育推進基本計画策定の目的・内容、食育の推進と地方食育推進計画について学習する。				
15	諸外国の健康・栄養政策	到達目標:諸外国の健康・栄養政策について理解する。学習内容:公衆栄養活動に関係する国際的な栄養行政組織、公衆栄養関連計画、食事摂取基準、食事ガイド(食生活指針、フードガイド)、栄養士養成制度について学習する。					
成績評価の方法・基準	中間試験(45%)、期末試験(45%)、小テスト(10%)						
教科書	コンパクト公衆栄養学		川野 因、梶本雅俊 編			朝倉書店	
参考図書	適宜紹介します						
教員からのメッセージ	授業は進行状況により内容を変更することがあります。						